

令和6年度事業報告

社会福祉法人 翡翠会



社会福祉法人 翡翠会

法人の理念

「地域と共に生きる」

翡翠会行動指針

「3つの顧客、3つの LIFE の最大化」

3つの顧客

- ・利用者様…翡翠会のサービスを利用する方々
- ・地 域…大網白里市をはじめ山武郡市の地域住民
- ・職 員…翡翠会に勤務する職員

3つの LIFE

- ・生 命…健康管理
- ・生 活…日常生活
- ・人 生…生きがい

利用者様への基本姿勢

- ・利用者様の意向を尊重して、多様な福祉サービスが総合的に提供されるよう創意工夫すること。
- ・利用者様個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成すること。
- ・利用者様の能力に応じ、自立した生活を地域で営むことができるよう支援すること。

翡翠会職員行動規範

- ・「清潔感」と「礼儀正しさ」
- ・「スピード」は誠意のあらわれ
- ・「普通の感覚」を忘れない
- ・「エコ」～「お金」「もの」「人力」を大切に使う
- ・「能動性」～自ら気づき行動する勇氣
- ・「チームワーク」～自己任務遂行と多様性の尊重

事業報告

令和6年度法人目標

- ・地域のニーズを捉え、報酬改定に対応する
- ・人材の確保・育成・定着を一貫して行うシステムを構築する
- ・老朽化した施設の改修を行い、利用者様と職員の3つのLIFE向上を図る
- ・ICTと災害対策のさらなる推進

次年度への考察

報酬改定の年度であったが、生活介護事業所の定員の変更を行う等、柔軟に対応した。特に、長年稼働率に伸び悩んでいた放課後等デイサービス「山武青い鳥の家」については、共生型の指定を取り直すことで、山武青い鳥工房との一体的な運営が出来るようになった。今後は、将来的に山武青い鳥工房の利用を見据えた身体障がい児の利用を勧めていく。

人材確保については、今年度より「人材確保部会」を発足し、現場の職員を交えながら、法人全体の課題として取り組んだ。先進的に取り組んでいる県外法人への視察も行い、本会との比較・検証をした。人材育成・人事評価制度については、鋭意進めており、令和7年度からスタートする予定である。

施設の老朽化については、山武青い鳥工房の外壁塗装工事を実施した。山武みどり学園においては、職員の為の休憩スペース「ラウンジ棟」の建設計画を実施、設計段階で職員から要望の聞き取りを行った。完成は令和7年度末である。

感染症・災害対策については、各部会を中心に、法人全体で取り組んだ。ICTについては、経費精算システム「楽楽精算」を導入した。これにより、小口現金等の出納業務が大幅に減った。今後は支払いについても、クレジットカードでの支払い、収納代行サービスを用いた利用料の徴収等キャッシュレス化を促進していきたい。

○理事会

- ・令和6年6月8日 午前10:30~12:30（山武青い鳥工房）

議 題：第1号議案 令和5年度事業報告案について

第2号議案 令和5年度会計決算案について

監事監査報告

第3号議案 定時評議員会の開催について

第4号議案 役員等賠償責任保険契約締結について

第5号議案 資金運用について

第6号議案 人事評価制度について

第7号議案 諸規定の改定について

報告第 1 号 理事長の専決業務報告について

- ・令和6年9月26日（書面決議）

議 題：第 1 号議案 諸規定の変更について（給与規程の変更 ほか）

- ・令和7年3月22日 10：00～12：00（大網白里市中央公民館）

議 題：第 1 号議案 令和 6 年度補正予算（案）について

第 2 号議案 令和 7 年度事業計画（案）について

第 3 号議案 人事考課制度について

第 4 号議案 人事について

第 5 号議案 1 山武みどり学園改修工事計画について

第 5 号議案 2 山武みどり学園改修工事計画銀行融資について

第 6 号議案 山武みどり学園（居室収納家具）改修工事について
（入札方法・選定基準・予定価格）

第 7 号議案 山武みどり学園作業棟（ひまわりハウス）改修工事について
（入札方法・選定基準・予定価格）

第 8 号議案 令和 7 年度会計予算（案）

第 9 号議案 評議員選任・解任委員の選任について

第 10 号議案 諸規定の改正について

報告第 1 号 虐待通報の報告について

報告第 2 号 理事長の専決業務報告について

報告第 3 号 法人の監査結果について

○評議員会

- ・令和6年6月24日 10：30～12：30（青松庭白砂）

議 題： 1 号議案 令和5年度事業報告について(報告)

2 号議案 令和5年度会計決算案について

監事監査報告

○職員構成（令和7年4月1日現在）

山武みどり学園

	正職員	非常勤職員	
統括施設長	1	0	社会福祉士・介護支援専門員
課長	2	0	サービス管理責任者・社会福祉士・介護福祉士
主任	3	0	社会福祉士・介護福祉士・保育士
支援員	13	14	社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・保育士
事務員	1	0	
看護師	0	1	准看護師

栄養士	0	2	管理栄養士・栄養士
調理員	2	9	
合計	22	26	

山武青い鳥工房・山武青い鳥の家

	正職員	非常勤職員	
主任	2	0	サービス管理責任者・保育士
支援員	2	15	保育士
事務員	2	1	
看護師	0	2	正看護師・准看護師
調理員	0	1	
合計	6	19	

カサ・ロサーダ

	正職員	非常勤職員	
課長（施設長）	1	0	サービス管理責任者・社会福祉士
支援員	1	5	介護福祉士
合計	2	5	

翡翠の宿一休

	正職員	非常勤職員	
係長（施設長）	1	0	介護福祉士
支援員	0	3	介護福祉士
合計	1	3	

すえひろ工房やまぶき

	正職員	非常勤職員	
係長（施設長）	1	0	社会福祉士・介護福祉士・保育士・精神保健福祉士・介護支援専門員・サービス管理責任者
支援員	2	6	保育士
看護師	0	1	准看護師
合計	3	7	

ことぶき庵一休

	正職員	非常勤職員	
支援員	0	4	社会福祉士・介護福祉士・保育士
合計	0	4	

かきつばた

	正職員	非常勤職員	
--	-----	-------	--

管理者	1	0	介護福祉士
介護支援専門員	1	0	介護支援専門員
介護職	4	7	介護福祉士
看護師	0	2	保健師・准看護師
合計	6	9	

ほほえみの里 かきつばた

	正職員	非常勤職員	
係長（施設長）	1	0	介護支援専門員・介護福祉士
主任	1	0	介護福祉士
看護師	0	1	正看護師
介護職	5	10	介護福祉士
合計	7	11	

居宅介護支援事業所かきつばた

	正職員	非常勤職員	
管理者	1	0	主任介護支援専門員
介護支援専門員	1	0	社会福祉士・介護支援専門員
相談支援専門員	1	1	相談支援専門員
合計	3	1	

※正職員 50名 非常勤職員 85名 合計 135名

○法人事務局

本年度事業の重点項目

マネジメント

- ・LINEWORKS を利用した年間行事等スケジュール管理の一元化。
- ・Googleworkspace を活用したクラウドスペースのさらなる活用。
- ・インボイスや電子帳簿保存法に対応できる会計システムの導入。
- ・有給休暇の一括取得を制度化し、職員の働き方改革の一環とする。
- ・障がい部門では、若年層と高齢化する利用者様の二極化が見られており、中でも高齢の利用者さまへのニーズに合った支援が求められている。弊社介護部門との人材交流やノウハウ共有を行う場の確保・調整を各事業所と行う。

- ・介護部門では、多岐に渡るニーズに応えられるよう、介護支援に関わるケアグッズ・デジタルテクノロジー機器の積極的導入を図る。

人材確保・育成

- ・「（仮称）人材確保部会」を立ち上げ、問題提起と解決を図る。
- ・就職フェア参加、オンライン説明会実施。SNS での情報発信を継続する。

- ・職員の外部研修参加の機会を提供する。
- ・人材定着のため定期的な面談（1on1）の実施、ストレスチェックを活用したメンタルサポートを引き続き行う。
- ・人事異動を通じて、「各事業所の人材活性化」を図る。
- ・「ひすいかい子ども食堂」では、引き続き学生ボランティア参加や山武みどり学園支援課協力のもと製品販売を実施。子ども食堂の名称ではあるが、利用者の半数は「大人世帯」である。今後も全世帯向けの「地域食堂」としての役割を果たしていきたい。

次年度への考察

マネジメント

- ・LINEWORKS を利用した行事管理の一元化は達成できている。
- ・Googleworkspace の活用については正職員の「チェック表」管理、年末調整申請など限定的ではあったが活用できた。次年度は「DX 学校」へ2職員が参加予定。さらなる活用ができる枠組み作りをしていく。
- ・有給休暇取得については、各事業所協力のもとおおよそ達成できている。次年度は公休数が113日へ増加。それに伴う業務効率化・省人化が求められるものと思われる。
- ・4部会体制となり、障がい部門、介護部門、その他部門の職員同士の交流が促進され、人事異動の際赴任先に知り合いがいる状況となるなど相乗効果がみられている。同時に異なる事業所に所属する部会員同士、お互いの業務のノウハウ共有確保の場ともなっている。
- ・デジタルテクノロジー機器の積極導入については、小規模多機能型居宅介護事業所かきつばたへの眠りSCAN導入により、全事業所設置が完了。またほほえみの里かきつばたは、介護ロボットHUGのデモ使用を通じて効果検証するなど、法人内でのパイオニア的位置づけとなっているのは大変心強い。

人材確保・育成

- ・人材確保部会を通じて、現場職員目線での問題点の洗い出しを実施。解決策は、次年度合併予定の（仮称）生産性向上部会において対応していきたい。
- ・法人情報発信は、購入した撮影機材を使って人材確保部会部会員が撮影を行うことで、定期的にできている。
- ・職員の外部研修については、各事業所協力のもと、新人研修をはじめ「強度行動障害研修」など正・パ問わず多数が参加した。次年度もシフト調整を行いつつ、継続予定である。
- ・メンタルサポートについては、定期的な面談実施、メンター制度の運用を実施予定である。
- ・「ひすいかい子ども食堂」については、学生ボランティアの動員ができている。

山武みどり学園やすえひろ工房やまぶきの協力を得て、物品販売も行われており、次年度も協力を仰いでいる。令和6年度を通じた開催では、依然として全世帯向けの地域食堂としてのニーズが高く、この傾向は次年度も続くものと思われるため、要望に応えていきたい。

○山武みどり学園

実施事業

- ・生活介護（定員40名）
- ・施設入所支援（定員40名）
- ・短期入所（定員8名）

利用者状況

【施設入所支援】

平均年齢：全体48.2歳（男性47.8歳 女性49歳）

最高齢：71歳

最年少：32歳

障害支援区分（平均5.87）

区分	1	2	3	4	5	6	合計
男性	0	0	0	0	8	20	28
女性	0	0	0	0	3	9	12
合計	0	0	0	0	11	29	40

利用稼働率

施設入所支援 99.0%

生活介護 116.4%

短期入所 60.9%

年間行事報告

月	目的	内容
4月	季節を感じる	ピクニック
5月	季節を感じる	GWレク
6月	好きな物を選択して食べる	選択食 (ジャージャー麺 or あんかけチャーハン)
7月	季節を感じる	七夕
8月	季節を感じる	お盆レク
9月	地域との関わり	秋祭々
10月	身体を動かす 季節を感じる	フライングディスク大会 ハロウィン
11月		

12月	地域との関り	クリスマス会（コロナ感染拡大に伴い中止）
1月	季節を感じる	お正月レク（コロナ感染拡大に伴い中止）
2月	好きな物を選択して食べる	選択食 （ブフ・ブルギニョン or ポワレ）
	季節を感じる	節分
3月	身体を動かす	グランドボール大会

本年度事業の重点項目

- ・虐待防止・権利擁護の観点から、基幹職員や虐待防止部会職員が積極的に外部研修に参加する。外部研修に参加した職員は講師として職場内研修を開催し、パート職員を含めた全職員が互いに学び合う機会を設け、一層の意識醸成を図る。
- ・高齢となった利用者様へのサービスを充実させるため、青い鳥工房と連携しながら、ニーズに合った支援を行う。
- ・痛みが目立って来ている2階床長尺シートの修繕を行う。また、1階事務所横のトイレについても、「玄関に入った時からトイレ臭が気になる。」と来客者から指摘があったため、修繕を行う。
- ・近年福祉の現場で職場環境を改善する動きが活発となっており、人材確保の重要な要件となっているため、職員が休憩時間を利用者様とは離れた場所で過ごし、気持ちを切り替えて仕事に臨めるような環境を整える事を目的に、リビング棟（仮称）計画を検討するPTを立ち上げる。
- ・感染症対応時、保健所から集団感染のリスクを低下させるため、食事場面のセパレートや、事業所内をユニット化してはどうかとの助言があったため、実施可能か検討を行う。

次年度への考察

- ・虐待防止部会によって行われたセルフチェックの結果や事業所の視察により、法人内では通所施設や高齢者施設よりも支援の質に関して改善すべき点があるということが浮き彫りになった。支援に携わる全職員（パート職員も含めて）が職場内研修を受けたことで、虐待とは何かを今一度考え、自身の支援を見つめ直す良い機会となった為、今後も継続して行っていくことで意識を高めていきたい。
- ・開所してから25年目に入る年ということで、利用者様の高齢化も進んでいるため、当時行っていた形を継続していくことが色々な場面で難しくなっている。現時点でも活動メニュー等の日課の見直しは行われているが、利用者様のニーズは様々であるため、「山武青い鳥工房」「すえひろ工房やまぶき」などと連携し、一人ひとりに合った生活を組み立てていけるよう検討していきたい。
- ・作業室や二階廊下の床シートの張替えが済んだが、細かな修繕を日々行ってい

たり、老朽化が気になる箇所は他にもある為、利用者様に気持ちよく過ごしていただけるよう、優先度を考慮しながら話を進めていきたい。

・職員の福利厚生を目的としたラウンジ棟建設の話が進んでいるが、完成後にはそれを十分に活用し、仕事と休憩をしっかりと分けることで業務の効率化を図っていけるようにしたい。また、新しく入職する職員にも安心して働ける環境を用意していきたい。新型コロナウイルスによるクラスターが起きた際、ゾーニングが難しい状況もあった為、感染症対策としてもラウンジ棟を上手に活用していきたい。

○山武青い鳥工房

実施事業

- ・生活介護（定員30名）

利用者状況

平均年齢：全体 43.3 歳（男性 44.2 歳 女性 41.8 歳）

最高齢：74 歳

最年少：18 歳

障害支援区分（平均 5.05）

区分	1	2	3	4	5	6	合計
	（無）						
男性	0	0	0	11	9	13	33
女性	0	0	1	5	6	8	20
合計	0	0	1	16	15	21	53

利用稼働率

生活介護 94.2%

年間行事報告

月	目的	内容
4 月	外出	いちご狩り
5 月	外出	バラ園
6 月	レク	ドライブ
7 月	施設行事	納涼祭
8 月	レク	ドライブ
9 月	レク	ドライブ
10 月	レク	ハロウィン
11 月	レク	焼き芋
12 月	施設行事	クリスマス会
1 月	外出	初詣・成人式

2月	レク	節分・バレンタイン
3月	外出	河津さくら

本年度事業の重点項目

- ・新型コロナウイルス感染症対策のガイドラインが変化しているが、しっかりと感染症対策を行いつつも柔軟に利用できる仕組み作りを行う。
- ・現在の生活介護事業の見直しを行い、営業日を増やす、定員を変更する、営業時間等、利用者様に選んで利用していただけるように事業展開を行う。
- ・利用者様のニーズが多様になって来ているため、活動メニューや受注作業、入浴について再検討を行う。
- ・ケア記録アプリを有効に活用し業務の効率化、ペーパーレス化に取り組む。
- ・新規利用者様を確保するため、相談支援事業所・特別支援学校へ働きかける。また、みどり学園など他事業所の利用者様を受け入れるなど関係事業所と連携を図る。
- ・特別支援学校の実習を終えた方々が、卒業後に利用に繋がるよう学校や相談支援事業所との連携を図る。
- ・福祉系大学や専門学校からの実習生を積極的に受け入れ、法人への就職につながるよう働きかける。

次年度への考察

- ・生活介護・放課後デイサービス事業の見直しを行い、共生型放課後等デイサービスにした強みを活かしてスムーズに移行できるように放課後等デイサービス・生活介護一体で受け入れ態勢を強化していく必要がある。
- また、特別支援学校の実習を終えた方々が、卒業後の利用に繋がるように学校や相談支援事業所との情報共有・連携を図り、新規利用者様確保に繋げることが大切。
- ・補助金制度を利用して特浴を購入し、特浴が必要なみどり学園の利用者様や地域の入浴希望のある方々を受け入れるなど多様化する入浴ニーズに柔軟に対応していくことで、地域から選ばれる事業所になれるようにする。
- ・子ども食堂の会場が青い鳥という事で各事業所の作品販売や日々の活動・食事など写真や映像で掲示し、翡翠会をPRする。ボランティアで来てくれた方々に法人への就職に繋がるよう働きかけることが重要。
- ・近年、通所系の事業所に実習に来た方が翡翠会に就職している為、福祉系大学や専門学校からの実習生を積極的に受け入れ、翡翠会をアピールすることで法人への就職に繋がるように積極的に働きかける。
- ・送迎車の経年劣化が激しいので新しく送迎車を購入する必要がある。
- ・カサ口短期利用者様の日中活動の場として受け入れを強化する必要がある。

○山武青い鳥の家

実施事業

- ・放課後等デイサービス（定員１０名）

利用者状況

平均年齢：全体 １３歳（男性 １３.６歳 女性 １１.８歳）

最高齢 ： １７歳

最年少 ： ６歳

個別サポート加算Ⅰ

障害支援区分

区分	１	２	３	合計
男性	１	５	６	１
女性	２	２	４	２
合計	３	７	１０	３

利用稼働率

放課後等デイサービス ４４．６％

年間行事報告

月	目的	内容
４月	レク	誕生日会
５月	レク	誕生日会
６月	レク	誕生日会
７月	レク	納涼祭
８月	レク	誕生日会
９月	レク	誕生日会
１０月	レク	ハロウィン
１１月	レク	誕生日会
１２月	レク	クリスマス会
１月	レク	誕生日会
２月	レク	節分
３月	レク	誕生日会

本年度事業の重点項目

- ・学校、相談支援事業所との連携を図り、新規利用者の獲得に努めていく。
また、生活介護と一体的に運営できるよう、共生型の指定についても検討していく。
- ・身体障害をお持ちの児童も増えてきたため、適切なケアが提供できるようご家族や学校等との連携を図る。また、卒業後スムーズに生活介護に移行できるよう事業所同士の情報共有も図っていく。

- ・ケア記録アプリを活用し、ペーパーレス化を図っていく。
- ・職員配置を検討し、医療的なケアが必要な児童等の受け入れや、祝日等の営業も検討していく。

次年度への考察

・10月より共生型放課後等デイサービスへ変更し、生活介護と一体的な運営を行っている。特別支援学校を卒業したあと、慣れた環境で成人サービスへ移行できるように、長期休暇や実習など通じて生活介護の様子を体験していただきながら、卒業後のイメージが持てるように、ご本人、ご家族、学校、相談支援事業所など関係機関と連携を図りながら行っていく。また、共生型放課後等デイサービスについて、相談支援事業所や特別支援学校へ説明し、卒業後青い鳥工房の利用を検討していただけるように情報発信していく。

○カサ・ロサーダ

実施事業

- ・共同生活援助（定員12名）

利用者状況

平均年齢：全体 51.2歳（男性 50歳 女性 52.5歳）

最高齢：76歳

最年少：20歳

障害支援区分（平均 4.3）

区分	1	2	3	4	5	6	合計
男性	0	0	1	4	1	0	6
女性	0	0	1	1	3	1	6
合計	0	0	2	5	4	1	12

利用稼働率

共同生活介護 90.5%

年間行事報告

月	目的	内容
4月	お花見ドライブ	桜のお花見に出かけ気分転換
5月		
6月		
7月	七夕まつり	茂原の七夕まつりに参加する
8月		
9月		
10月	ハロウィン	ハロウィンの雰囲気を楽しむ
11月		

12月	クリスマス会	クリスマスの雰囲気を楽しむ
1月	年末年始	新年のお祝いと初詣
2月		
3月		

本年度事業の重点項目

- ・居室の空き状況を報告し、青い鳥工房をはじめ法人内の宿泊ニーズに応えられるよう体制をつくる。
- ・令和6年度の報酬改定により、介護分野にあるような推進会議や見学会の開催などが必要とされている。改定内容を理解し対応する。

次年度への考察

- ・グループホーム事業所が圏域内問わず増えている。青い鳥工房と隣接している立地と空床型短期入所を持っている事を活かして日中活動と宿泊のニーズに応えられるよう青い鳥工房と連携していく。
- ・令和7年度より地域連推進会議が義務化される為、会議と見学会の開催への対応を行なっていく。

○翡翠の宿一休

実施事業

- ・短期入所（定員6名）

利用者状況

平均年齢：全体 50.5歳（男性 50.5歳 ※女性利用なし）

最高齢：63歳

最年少：36歳

障害支援区分（平均 5.2）

区分	1	2	3	4	5	6	合計
男性	0	0	0	1	3	2	6
女性	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	1	3	2	6

利用稼働率

短期入所 63.2%

年間行事報告

月	目的	内容
4月		
5月		
6月		
7月		

8月	社会体験 ※外食予定だったが、感染症対応の必要があり、中止。
9月	
10月	
11月	
12月	
1月	
2月	
3月	

本年度事業の重点項目

- ・新規利用者様の確保と安定した利用の推進
- ・地域生活支援拠点事業による急な受け入れも想定されるため、緊急時のマニュアルを整備した上で、多くの職員が一休の業務に関われるよう、山武みどり学園と連携していく。
- ・一休利用者様対象のイベントや行事を企画し、山武みどり学園とは別の楽しみも見出せるよう支援する。

次年度への考察

- ・稼働について低い状況が続いているので、定期的に利用されている方の受け入れを継続しつつ、新規の利用者様を早急に確保し、稼働率を回復し、安定した稼働率を目指す必要がある。
- ・行事企画についても定期的に行なっていき、その様子を SNS 等に上げ、一休に興味を持って頂き、新規利用の確保に繋げられるようにする。
- ・緊急での受け入れのマニュアルについて、引き続き更新して行なっていく。
- ・4 月より新規の利用者様が利用されているので、その方の生活リズムを整えていく。また、集中して行なうことが出来る課題を提供していく必要がある。

〇すえひろ工房やまぶき

実施事業

- ・生活介護（定員20名）

利用者状況

平均年齢：全体 39.6歳（男性 41.5歳 女性 38.4歳）

最高齢：63歳

最年少：19歳

障害支援区分（平均4.4）

区分	1	2	3	4	5	6	合計
(無)							
男性	0	0	0	4	4	4	12

女性	0	1	2	7	3	2	15
合計	0	1	2	11	7	6	27

利用稼働率

生活介護 71.6%

年間行事報告

月	目的	内容
4月	外出レク	お花見ドライブ
5月	社会参加	手をつなぐスポーツのつどい絵画制作
6月	社会参加	MTO カフェ（松尾高校）
	社会参加	八日市場特別支援学校きらら市（イオンタウン旭）
7月	施設レク	七夕
8月	施設レク	綿あめ・かき氷
9月	社会参加	手をつなぐスポーツのつどい絵画展
	外出レク	買い物・食事（東金サンピア）
10月	施設レク	ハロウィン
11月	社会参加	ひすいかい子ども食堂
	施設レク	さつまいも収穫
12月	施設行事	クリスマス会
	社会参加	MTO カフェ（松尾高校）
1月	社会参加	初詣（金毘羅神社・ばんどろ太郎）
2月	施設レク	節分の豆まき
	社会参加	手をつなぐ作品展（ユニモちはら台）
	社会参加	八日市場特別支援学校きらら市（イオンタウン旭）
	外出レク	外食（ラーメンハウス7番館）
	外出レク	散策（蓮沼海浜公園）
3月	社会参加	ひすいかい子ども食堂
	外出レク	買い物・食事（東金サンピア）
	外出レク	お花見・散策（ふれあい坂田池公園）

本年度事業の重点項目

- ・現在の活動メニューを大切にしつつ、個々の利用者様の過ごし方にも配慮や検討を行い、稼働率の安定も目指していく。
- ・高齢の親と地域でお住まいになっている方などが困った状況になった際、緊急で受け入れ等が行えるよう、ことぶき庵一休との連携を図るなど体制を整えられるようにしていく。

次年度への考察

- ・事業所開設から6年が経ち、さらに地域社会に認知されるよう、地域行事への参加や作品販売、地域住民の行事参加等に力を入れていきたい。
- ・社会情勢の変化の影響を受け、内職作業そのものの消滅なども起きているため、新たな作業の獲得に努めるとともに、ドライフルーツ作り、オリジナル作品作り、野菜作り、創作活動などに取り組むことで内職作業減による利用者様への工賃の影響を最小限にしていくとともに、オリジナルの作業を通して利用者様の就労経験の経験値獲得や地域とのつながりを築いていきたい。
- ・利用者様のニーズとして工賃を得ることもあるが、内職以外のニーズも高いので、余暇支援の充実を図っていく。また、個々のニーズにこたえられるように、利用者様やご家族様とのコミュニケーションを図っていきたい。
- ・利用者数も増加してきているので、現在利用してくださっている方が今後も楽しく過ごせるように支援するとともに、未永く翡翠会の利用者様でいてくれるよう、ことぶき庵一休をはじめ他事業所との連携等その方のニーズに沿ってご提案していきたい。
- ・引き続き、コスト削減を徹底していきたい。
- ・強度行動障害研修などの研修を受講し、職員のスキルアップを図ることで利用者様の満足度向上や職員の専門性向上・事業所の収入増加につながったため、引き続きこの体制を維持向上できるように強度行動障害研修未受講の職員への研修受講を企画していく。
- ・ひすいかい子ども食堂では、ボランティア様などの協力により、やまぶきとして参加することが出来ている。今後も滞りなく開催できるようにきちんと準備していく。
- ・特別支援学校実習生の受け入れや地域行事への参加を通して地域に根差し、卒業後の進路として選択肢に入れていただけるように努力するとともに、地域の利用者様に知っていただき、つながりを作りたい。
- ・今後も福祉人材は先細りになっていくことが予想される。大学・短大・専門学校からの実習生を積極的に受け入れ、後継者育成を念頭に置き、実習生に福祉の楽しさを知っていただけるように努力していく。
- ・職員による虐待が発生しないように研修の機会を設けていく。
- ・災害時に適切に避難行動が出来るように、避難訓練計画に沿って毎月の避難訓練を実施、訓練結果を踏まえてその都度BCPの見直しも図っていく。

○ことぶき庵一休

実施事業

- ・短期入所（定員5名）

利用者状況

平均年齢：平均年齢：全体 37.3歳（男性38.5歳 女性32.6歳）

最高齢 : 62歳

最年少 : 15歳

障害支援区分（平均 4.0）

区分	1	2	3	4	5	6	合計
男性	0	0	1	1	0	0	2
女性	0	1	1	7	0	2	11
合計	0	1	2	8	0	2	13

利用稼働率

短期入所 31.6%

年間行事報告

※土日の稼働が出来ていなかったため、2月まで行事実施なし。

月	目的	内容
4月		
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
1月		
2月		
3月	社会参加	買い物・散策（ベイシア東金）

本年度事業の重点項目

- ・職員の安定した配置ができた上で、ご利用希望があった際の積極的な受け入れや稼働率の上昇を目指していく。
- ・高齢の親と地域でお住まいになっている方などが困った状況になった際、緊急で受け入れ等が行えるよう、すえひろ工房やまぶきとの連携を図るなど体制を整えられるようにしていく。

次年度への考察

- ・定期的に利用している方の受け入れを継続しつつ、新規利用者様の獲得にも努めていく。
- ・現在すえひろ工房やまぶきを利用している方にも、いざという時に安心して預けられる場所として認識してもらうため、利用の機会を提案していく。

- ・緊急時の受け入れを円滑に行うことで、地域生活支援拠点としての役割を果たしていく。
- ・現在、利用されている方が継続利用できるように支援体制を整えていくとともに、新たに利用される方や利用ニーズがある方を積極的に受け入れていく。また、ご利用について不安を感じている方などに向けて宿泊会等も開催し、利用者様が楽しくご自分のお家同様にリラックスして過ごせるような機会を提供していく。
- ・利用者様の必要としていることにきちんとこたえられるように支援の計画を立てて個々の目標に向けて継続的な支援を実施していく。
- ・やまぶき職員とことぶき職員の連携を図り、一体運営を行うことで、重度障害で宿泊ニーズが高い方の支援を充実させていく。
- ・定期的にイベントを開催し、利用者様が楽しくことぶきに集まれるようにしていく。
- ・強度行動障害研修を受講し、ことぶき職員の専門性の向上を図る。
- ・職員に障害者虐待防止法の理解を促し、利用者様、ご家族様も安心して利用できるようにする。
- ・山武圏域では宿泊サービス供給が宿泊ニーズを上回っていることを踏まえ、今までの想定利用者から範囲を広げて新規利用者様の獲得につなげていきたい。

○かきつばた

実施事業

- ・地域密着型高齢者小規模多機能型居宅介護事業所
登録定員 29 名 通いサービス利用定員 15 名
宿泊サービス利用定員 7 名
- ・共生型生活介護
- ・共生型短期入所

利用者状況

平均年齢：全体 85.7 歳（男性 85.7 歳 女性 85.8 歳）

最高齢 ： 100 歳

最年少 ： 56 歳

介護度（平均 0.9）

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	認定 中	合計
男性	1	3	2	2	0	0	0	1	9
女性	0	5	1	4	4	1	0	3	18
合計	1	8	3	6	4	1	0	4	27

利用稼働率

通い 74.9%

泊まり 65.0%

訪問 4,269 回（年間総数）

年間行事報告

月	目的	内容
4 月	お誕生日のお祝い	お誕生日会
5 月	お誕生日のお祝い	お誕生日会
6 月	お誕生日のお祝い	お誕生日会
7 月	季節感を味わって頂く お誕生日のお祝い	納涼会 お誕生日会
8 月	お誕生日のお祝い	お誕生日会
9 月	季節感を味わって頂く お誕生日のお祝い	敬老会 お誕生日会
10 月	季節感を味わって頂く お誕生日のお祝い	ハロウィンパーティー お誕生日会
11 月	お誕生日のお祝い	お誕生日会
12 月	季節感を味わって頂く お誕生日のお祝い	クリスマス会 お誕生日会
1 月	季節感を味わって頂く お誕生日のお祝い	新年会 お誕生日会
2 月	季節感を味わって頂く お誕生日のお祝い	節分豆まき お誕生日会
3 月	お誕生日のお祝い	お誕生日会

本年度事業の重点項目

- ・年明けから新型コロナウイルスやインフルエンザ等の影響で、罹患者対応、ご家族対応、スタッフ自宅待機が相次いで危機的状況が続いた。感染拡大が防げたのと現場スタッフの頑張りもあって、現在は落ち着いている。感染症予防やスタッフの健康管理を呼び掛けていく。
- ・現在、利用定員 29 名で宿泊も満室に近い状態を保つことが出来ているが、ご家族から通所・訪問・宿泊のサービス拡大を求める声が強い。退職する職員もあり、スタッフの増員やサービスの適正利用が求められる。
- ・ご利用者の状態・環境把握に努め、家族や他事業所と連携して本人にあったサービスを提供していく。
- ・共生型サービスのスムーズな指定更新を実施する。

次年度への考察

・今冬は、職員やご利用者様にコロナウィルスやインフルエンザ等の感染症がない状態で越すことが出来た。来冬も感染症がない状態を保持出来るよう努力したい。

・現在、利用定員 29 名近くで宿泊も6割以上を保つことが出来ているが、相変わらずご家族から通所・訪問・宿泊のサービス拡大を求める声が強い。ご家族にもサービスの適正利用をお願いしながら運営していく。

・次年度もご利用者の状態・環境把握に努め、家族や他事業所と連携して本人にあったサービスを提供していく。

・昨年度春から初夏は営業が取れずに登録者数が大きく落ち込んだが、居宅かきつばた、包括支援センター、大網病院、在宅支援センターのご協力あり、最近ではほぼ登録定員数いっぱいの数をキープしている。これからも地域の方々に信頼される事業所であれるよう努めていく。

・昨年度は登録者の連泊が多く、本当にショート利用を必要としている方にサービスが一部提供出来なかったこともあった。連泊されている方のニーズにも応えつつ、登録者に不公平感が出ないような運営をしていく。

・現在も利用料の殆どを現金集金しており、そこにある程度の時間を割かれている。引き落としや振込みなど銀行を介して入金されている方には手数料をお支払い頂いているのに、現金入金で手間がかかっている方は手数料が発生しないと云う矛盾も発生している。本年度は、銀行を介する集金を推し進めていく。

○ほほえみの里かきつばた

実施事業

・地域密着型サービス認知症対応型共同生活介護事業所

定員 18名

利用者状況

平均年齢：全体 86 歳（男性 82 歳 女性 88 歳）

最高齢 ：103 歳

最年少 ：69 歳

介護度（平均 2.6）

	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
男性	0	3	2	2	1	0	8
女性	0	2	1	3	4	0	10
合計	0	5	3	5	5	0	18

利用稼働率

共同生活介護

1 階ユニット 95.2%

2 階ユニット 97.1%

年間行事報告

月	目的	内容
4 月	誕生日お祝い 収穫	誕生会 エンドウ豆収穫
5 月	誕生日お祝い 気分転換 苗植え	誕生会 ドライブ(瀬又方面 鯉のぼり見学) じゃがいも、サニーレタス苗植え
6 月	誕生日お祝い	誕生会
7 月	誕生日お祝い	誕生会
8 月	季節行事	納涼会
9 月	季節行事 誕生日お祝い	敬老会 誕生会
10 月	季節行事	ハロウィン
11 月	季節行事 誕生日お祝い	芋煮会 誕生会
12 月	季節行事 誕生日お祝い	クリスマス会 誕生会
1 月	季節行事 誕生日お祝い	初詣外出(橘樹神社) 誕生会
2 月	季節行事 誕生日お祝い	節分 誕生会
3 月	気分転換 誕生日お祝い	桜鑑賞ドライブ(白子方面) 誕生会

本年度事業の重点項目

- ・小多機、居宅かきつばたと連携を図り、短期入所の PR や利用を進め、速やかな入居へ結び付けていく。また、お互いの会議に参加するなど情報交換を行い、課題に関して意見交換が出来るよう関係構築を目指す。
- ・緊急時の受け入れ先として、地域のニーズへ応えることができるよう引き続き対応していく。
- ・BCP の運用。災害、感染時の動きについて全職員が認識して動けるようになるよう訓練を行っていく。令和 5 年度地域介護・福祉空間整備等施設整備交付金の内示を受け非常用自家発電の設置は不調に終わった。取り掛かりが遅くなってしまったことや知識不足により今回は実現しなかった。水害ハザードマップに記載されている場所でもあるので再来年度再度申請を行い、

災害に強い施設作りを目指していく。感染症や災害に強い施設作りを進める。

- ・ICT の効率的な利用の推進。介護記録アプリ・眠り SCAN のデータをまとめ、課題を抽出し、会議を行い、ケアに反映していく。QOL 向上を目指す。
- ・職員同士が話しやすく、相談しやすい体制の構築。ユニット会議・職員会議等、積極的に開催することで情報の共有化を図る。

次年度への考察

- ・理念に基づいたケアの実施

ほほえみの里かきつばたでは法人理念の他に事業所理念を掲げている。

”入居者様職員が笑顔溢れ生きがいを持った生活ほほえみの里を目指していきます。”

理念を持って取り組むためにも余裕のあるケアの実施を目指していく必要がある。業務効率化を推進するために今年度より生産性向上委員を立ち上げ、ICT を積極的に活用し少人数で対応できる環境作りを構築していく。

- ・災害に強い施設作りの実施

昨年度同様 BCP の見直し改善はもちろん次年度は「地域介護・福祉空間整備等施設整備交付金」を申請し、非常用自家発電の補助金申請を行い導入に向けた取り組みを行っていく。

- ・マルチタスク化

この先の人材難が予測されることで複数のポジションで働けるようにしていくこと、また小規模多機能への応援体制を前年度に続き、引き続き行っていくことでお互いが助け合える関係づくりの構築を目指していく。

○居宅介護支援事業所かきつばた

実施事業

- ・居宅介護支援
- ・障がい児・者特定相談支援

利用者状況

平均年齢：全体 85 歳（男性 83 歳 女性 87 歳）

最高齢 ：99 歳

最年少 ：66 歳

介護度

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	事業 対象者	合計
男性	1	4	6	4	2	3	0	0	20
女性	10	13	12	11	6	2	0	0	54
合計	11	17	18	15	8	5	0	0	74

利用稼働率

契約者数 77名

取り扱い件数 74名

本年度事業の重点項目

- ・利用者様、法人の利益を両立する為に法人内の障がい、介護各事業所との連携、情報共有、協力体制を益々強化していく。
- ・4月より地域生活拠点事業が開始される、法人内の短期入所事業所との連携で必要時、随時出来る限り対応し、利用者様に地域生活を支えていく。
- ・相談支援専門員 常勤換算 1.1 名 介護支援専門員常勤換算 1, 6 名体制の中で利用者様にとってより良い相談支援を行う為に多くなっている相談件数の中から担当職員の力量、担当の許容を精査し受け入れを検討しながら受け入れていく。
- ・障がい、介護の枠を超えて事業所内で支援について相談できる職場環境を心がけ一人で抱えこまない職場づくりを皆で行っていく。
- ・法改正と ICT 活用の申請により介護の請求件数上限が常勤換算 1 名あたり 49 件となる予定であり カイボケ情報連携等 効率の良い業務の遂行を進めていくことが障がい、介護支援ともに重要になる。
- ・地域の高齢者世帯は増加しており 法人理念に添って 地域の相談の場としての役割を果たしていく必要がある。
- ・子育てや親の介護と仕事両立が行え 長く勤務出来る職場環境を考えていくことが法人の利益につながると考えられる。

次年度への考察

- ・今後も周辺市町村の高齢化率は上昇を続け、障がいサービス利用者の高齢化も進んでいる。そのような中、事業所の特性を活かした相談対応がますます必要な状況になっていく。居宅介護支援・相談支援・他の法人内事業所と協働して対応していく必要がある。
- ・高齢者独居・老々介護・8050 問題・多問題家族等、近年の相談対応は複雑化しております。利用者を地域で支えていくための関係機関との協力関係もより重要になってくると考えられます。これまでも、公的機関や地域包括支援センター、障がい者基幹相談支援センター等と協力を得ながらの相談対応を行って来たが、さらに重層的な対応が出来るよう努める必要がある。それぞれの機関が主催する研修等に積極的に参加し、情報共有・関係強化を図っていく。

○感染症対策部会

事業の重点項目

- ・平時の感染症対策の見直し。マスク着用の自己判断化を推進。手指消毒の徹

底など感染症対策は引き続き行い、マスク着用を義務ではなく、自己の判断に委ねる。

- ・BCP の運用。机上・実践訓練を行い、感染時に適切に判断・対応できるようにする。

- ・緊急時の応援体制の構築。法人内の別事業所に体験に行き、緊急時に備える。

- ・感染症啓発活動の推進。引き続き、インフルエンザ、新型コロナウイルスなどの感染症に備えるため、外部講師の招聘、E ラーニングなどの研修を開催し啓発活動に努める。

次年度への考察

- ・脱マスク着用の推進

コロナウイルスが5 類に分類されてから2 年が経過した。利用者様との円滑なコミュニケーションを図る上でもマスクの着用は次年度より感染症流行期や体調不良時のみ着用に切り替えていく。感染症流行期の目安に関しては部会からアナウンスしていく。

- ・研修、感染症対策への啓発活動の推進

前年度に続き、引き続き職員に向けて研修を開催し、啓発活動に努め、感染症への対策や対応が出来る様に活動していく。

- ・BCP(業務継続計画)の定着、合理化

災害対策部会のBCP と連携する事で無駄なく研修、訓練を行う。有事の際の感染症対策を考える事、災害対策部会と連携し、BCP を細部まで詰められるよう議論を重ねていく。

○災害対策部会

事業の重点項目

- ・各事業所のBCP 等に変更があった場合は速やかに点検し更新する。

- ・災害時の連絡訓練を密に行なっていき、質の向上に繋げる。

- ・大規模災害が起きた時の法人全体の動きをマニュアル化。

- ・送迎を行なっている事業所について、海側を長い時間通らないような送迎ルートを各事業所で見直していく。ハザードマップも車内に完備。

- ・発電機の稼働及び、地震想定避難訓練を行なっていく。

次年度への考察

- ・大規模災害を想定した避難訓練の実施。まずは2 事業所間で連携をして避難訓練を行い、その後に全事業所と連携して避難訓練を行う。

- ・各事業所の車両に車載用の災害対策グッズの用意。

- ・各事業所での研修・訓練の実施を定期的に行い、BCP のアップデートを行

う。

- ・各事業所と翡翠会全体の非常食の定期的なチェック、見直しを行う。

○虐待防止部会

事業の重点項目

- ・翡翠会独自の職員セルフチェック表を作成し、年2回業務の振り返りを行う。
- ・虐待防止に関する外部研修に参加し、職員会議や内部研修において報告を行い、虐待に関する意識改革と虐待防止に取り組む。
- ・虐待の事例検討を行い、分析結果・再発防止策を全職員に周知する。
- ・風通しの良い事業所づくりの為、定期的な訪問を通して適切な支援へ繋げていく。

次年度への考察

- ・今年度、法人共通で作成した指針の見直しを、次年度以降実施していく。
- ・身体拘束の適正化が重要視されてきており、当法人においても各職員が身体拘束を減らすことの重要性を理解するよう、定期的な研修を実施していく必要がある。
- ・翡翠会独自のセルフチェックは、自由記述にすることで職員個人が自身の支援を見直す機会になった。次年度は回答率が増加するよう実施方法を工夫する。
- ・巡回訪問を初めて実施し、各事業所の状況を把握する必要性を感じた。巡回だけでなく、普段の様子が分かる応援職員からの意見等も取り入れていきたい。

○人材確保部会

次年度への考察

- ・本部会は、令和6年度が発足初年度であり部会員たち（みどり3名、ほほえみ2名、人事担当1名）で試行錯誤の中、翡翠会における人材獲得と定着に関する理解、他法人の取り組みを学ぶ（一泊二日で2法人見学実施）、情報発信のためのPR機材導入と定期的な素材撮影ができたことは大きな収穫であった。これらは次年度も継続予定である。
- ・令和7年度は、新規部会である（仮称）生産性向上部会と合併予定のため、今後の活動内容について、改めて検討する予定である。
- ・（仮称）生産性向上部会との合併により、人材獲得にとどまらず、ワークライフバランス、業務の労働生産性向上に基づいた人材定着の仕組みづくりにも力を入れていきたい。

○地域における公益的な取り組み

実施事業

- ・子ども食堂かきつばた（子ども食堂）

実施・参加状況

- ・年4回 開催 お弁当・食材配布形式で開催
（5月12日・11月10日・1月12日・3月9日）
- ・年間参加者 266名
- ・大網ロータリークラブ協賛による資金・食材の提供

事業の重点項目

・本会が開催する「ひすいかい子ども食堂」も、大網ロータリークラブや大網白里市に加え、パルシステム等協力団体が増加してきた。今後も関係機関と連携し、地域のニーズに合わせた運営を行う。

年4回 お弁当配布で開催予定。

次年度への考察

7年目を迎えた「ひすいかい子ども食堂」。大網ロータリークラブの多大な協力のもと、だいぶ当市の方々に浸透してきた。客層は子ども・大人が半分ずつで、大人は特に高齢者が多い。子ども食堂というよりは、誰もが参加できる場となってきた。米に代表される食品の価格高騰もあり、食材配布も大変好評である。フードバンクさんぶやパルシステム等とも連携し、地域の方々の期待に応えられるよう、事業を継続していきたい。